

教育課程編成委員会

令和7年度第2回委員会議事録

1.日時及び場所

日時: 令和8年2月13日(金)16:45~17:45

場所: 修成建設専門学校 129 大教室

2.出席者

西濱浩次・内倉悠・田中義久・湯浅桂輔・岸下真理・中村裕輔・作本博昭

小池祐也・小林希・山内裕輔・吉松吾朗・榎村吉高・田邊晋治

山下裕貴・見邨佳朗(遅刻)・谷川博康・鍵谷啓太・野瀬孝男・堤下隆司

角野峰生・山本順也・釜友知輿子・廣辻雅之・井上嘉亮・広瀬一樹・上杉敬史

倉方俊輔(欠席)・森上恒(欠席)・井上哲史(欠席)・辰井菜緒(欠席)

3.配布資料

資料1-1: 2025年度 第2回委員会 議事次第

資料1-2: 委員一覧表

資料1-3: 卒業展2026ご案内

資料1-4: RECRUIT INFORMATION2026

資料1-5: 教育研究所からの各種案内

4.議事次第

(1)開会挨拶 修成学園 山下裕貴理事長

1. 外部委員への謝辞および2025年度の状況

卒業設計の審査および教育課程編成委員会への出席に対し、外部委員へ謝意を表明した。

先週末に試験が終了し、2025年度の授業は概ね滞りなく完了した。現在は成績評価、ならびに卒業・新年度に向けた準備期間である旨を報告した。

2. 学校教育法改正に伴う「単位制」の導入(2026年4月～)

法改正に伴い、2026年4月より専門学校においても大学と同様の「単位制」が施行される。直近でカリキュラムの大幅な変更はないものの、制度面における重要な転換期として捉えている。

3. 「専攻科」の設置と新設学科の構想(2027年度～)

2027年度に向け、既存の受験課程(専科2級建築士科、専科1級建築士科等)を「専攻科」へと名称変更・改編する予定である。あわせて、「BIMエンジニア専攻科」や「スペースデザイン専攻科」の新設も計画している。

4. 産学連携の強化

教育を学内のみで完結させず、学外、企業との連携を重視する方針である。

この一年間、企業との協力機会が極めて多かったことを総括し、今後も実務に即した教育を推進していく姿勢を強調した。

(2)議事内容

1)2025年度課程修了報告

●建築学科、土木工学科、建設エンジニア学科、ガーデンデザイン学科について

野瀬副校長より報告

①建築学科

大阪府主催の「あすなる夢建築」第35回大阪府公共建築設計コンクールに意欲的に取組、応募数が例年の1.5倍に増加し、2月末の結果発表が楽しみである。

時間割工夫により1年生約150名が見学会に参加し、早期の就業意識形成を図った。

②土木・建設エンジニア学科

1級土木施工管理技術検定」の第1次検定で合格率47.1%(全国平均43.1%超)を達成した。また、「2級土木」の第1次検定では、建設エンジニア学科の受験者全員が合格するという快挙を成し遂げた。

産学連携のワークショップに19社が参加したほか、アスファルト工場の現場見学を通して品質管理や施工工程を直接学んだ。

③ガーデンデザイン学科

1年生が「造園技能士」3級に全員合格したほか、「2級造園施工管理技術検定」の第1次検定でも62.5%(全国平均49.7%超)の高い合格率を記録した。

産学連携授業として、ショッピングセンターの壁面緑化プレゼンや施工、他専門学校の屋上改修計画など、実践的な学びを展開しています。

- 専科2級建築士科、専科1級建築士科、建築デジタルデザイン学科、空間デザイン学科、建築施工学科、建築・デザイン学科について
鍵谷副校長より報告。

①専科2級建築士科

学科試験では合格率90.2%、製図試験では75%と高い合格率を記録した。

社会人への準備期間として、琵琶湖文化館などの現場見学会を実施した。

②専科1級建築士科

学科試験では23名中15名合格し、製図試験も4名輩出することができた。開設から5年経ち、年々合格率は上昇している。

2025年度から一部、修成オリジナル教材を開発し、本校に適したカリキュラムを実施。

③建築デジタルデザイン学科

実務に携わっている外部講師を積算事務所やBIM活用(設計から施工までの一貫利用や施工管理)に注力する工務店・建設会社など、実務領域に踏み込んだ授業を行った。

④空間デザイン学科

「一から徹底的に考えること」を重視しており、1年生全員がパス検定3級を受検し、合格者は2年次に1級受検やコンテスト応募を目指した。

2年次の目標である「商業施設士」を見据え、1年生から全員が「商業施設士補」の講習会に参加した。

照明デザイナーなどの実務者を招き、課題やデザインに対してプロの目線から直接アドバイスを受ける機会を設けた。

⑤建築施工学科

資格取得体制の強化: 従来よりも目標設定を早め、1年生で2級建築施工管理技士の一次検定合格、2年生で1級施工管理技士一次検定の合格を目指す新体制を整え、挑戦を続けた。

⑥建築・デザイン学科

今年度卒業設計の中でも、夜間生からも作品が選出された。

クラスは年代が違えども仲が良く、「修成祭」の中で模擬店を出店し、売上1位に輝いた。企業連携授業にも力を入れ、設計事務所、内装企業などから協力を得た。

2) 学校全体について 山下理事長より報告

【学外活動と企業連携】

- ・従来なかった夜間部での企業連携授業を行った。
- ・地域企業での壁面緑化プロジェクトが進行している。また、他専門学校の屋上緑化改修の相談も受けている。
- ・大阪・関西万博では、他の専門学校(大阪ブライダル専門学校、大阪調理製菓専門学校 ecole UMEDA)と連携し、未来の婚覧会にて空間プロデュースを担当した。
- ・土木研究会等のサークル活動では、毎年恒例の明石海峡大橋の見学会を再開させた。
- ・夏季休暇中、滋賀県高島市及び建設業協会と連携したインターンシップを実施した。

【資格取得支援と教育の高度化】

- ・工業高校出身の在學生も増え、夜間に行われる学科対策講座へ参加する学生も増えた。そして、本科在学中に2級建築士に合格する学生も出てきている。
- ・その他の資格でも、対策講座が行われ宅建士試験では、7名合格(2名留学生)した。
- ・建設DXも進んでおり、スパイダープラス(写真管理アプリ)を活用した実習を行い、デジタルツールとの連携を進めている。AI活用も積極的に活用する方針を掲げ、活用方法を模索している。

【学内行事】

「修成祭」という学園祭の他、留学生など交えた恒例の餅つき大会なども実施した。

(3)意見交換

- ・公益社団法人大阪府建築士会 田中 義久様

現在、大阪市の公共工事で設計に携わっているが、デザインや工法よりも仮設工事についての質問が多くなっている。今後、設計事務所も実務的な施工についても理解する必要がある。そういった意味でも、専門学校は即戦力になる人材育成の教育が大切である。また、異業種の交流や、留学生など異文化に触れ、総合的な人材育成が大切になってくる。

- ・プルーラルスタジオ 内倉 悠様

東京で仕事を行っているが、最近は開発前の遊休地の利用プロジェクトが増えてきた。建設費の高騰により計画段階から、予算や採算等、事業者もかなり慎重になってきている。以前はデザイン(意匠)設計でよかったが、設計だけではなく、施工計画の打合せも多くなってきている。それこそ、着工から解体までの一連の建設マネジメントが求められる時代になってきている。修成では、意匠だけではなく施工も学ぶ等即戦力をなりうる人材育成はすごくいい環境である。

以上

(文責: 井上嘉亮・広瀬一樹)